

## コロナ禍の中の子ども食堂

コロナ禍で「生野きらきら子ども食堂」は休止しておりましたが、夏休み期間子供が家ばかりで人との交わりがない状態を憂い、何かしてあげたいと胸を痛めていました。やまぐち子ども子育て応援ファンド助成金を交付されているので、少子化対策推進班に相談しましたら、「イベントでもやって下さい」と言われました。そこで「夏祭り」をやろうということになったのです。

8月18日（火曜日）に今まで子ども食堂に参加していた子供たちに声をかけ、遊びを中心に「生野きらきら子ども食堂」を開きました。



コロナ禍の中でいかに3密を避けて楽しめるかを考えました。室内は狭いので、2つのテントを張って、スイカ割り、花火、ヨーヨー釣り、折り紙など密にならないようにスタッフが気を付けて指導する事にしました。

門の入り口では、来場者一人ひとりの体温を計り、手をアルコール消毒した人が参加できるようにしました。外の担当は島崎さんです。

食事は密を避ける為「手作り弁当」にしました。またお菓子などは用意しませんでした。持ち帰りを原則にして、子どもや親たちに配りました。

子どもたちはスイカ割りを初めてした子どもが多く、「楽しかったー、スイカに当たったよ〜でも、割れなかった。残念！！」「こんなに楽しいことは初めてだ」「もっと力持ちにならないと割れないねー」など、夏休みの楽しい思い出になったようです。





暗くなって来た頃、幼児や低学年の子どもたちは、お弁当を持って帰りました。少なくなつた子どもたちで、花火を楽しみました。  
子どもたちが喜んでくれたことに、スタッフは喜び、コロナの感染がないことを祈りました。